

呼気 NO 検査とは

呼気中に含まれる一酸化窒素(NO)の濃度を測定する検査です。気道に炎症が起こると、気道上皮で誘導型一酸化窒素(iNOS)が増え、一酸化窒素(NO)が産生されます。呼気中の一酸化窒素(NO)濃度を測定することで、気道に炎症があるかどうか、またその程度を評価することが出来ます。



呼気 NO 検査のあれこれ Q&A よくある質問にお答えします

Q：スパイログラフィーとは何が違うのですか？

A：スパイログラフィーでは、肺活量・一秒量を測定することで、肺全体の評価を行います。一方、呼気NO検査は呼気中に含まれる一酸化窒素(NO)の濃度を測定し、気道に炎症があるかどうかを調べる検査です。検査方法もスパイログラフィーとは異なりますが、担当技師が声をかけながら検査を行いますので、そのタイミングに合わせて出来る範囲で行っていただければ問題はありません。

Q：この検査とスパイログラフィー、両方を受ける必要はあるのですか？

A：スパイログラフィーの測定結果だけでは、気道の炎症について詳細に評価することができません。両方の検査を受けていただくことで、より多角的に診断を行うことが出来ます。

Q：検査前に注意することはありますか？

A 測定値に影響する可能性があるため、検査前の喫煙は避けてください。



検査方法

息を吐いた状態でマウスピースをくわえ、口で息を吸っていただきます。最大まで吸い込んだ後、一定の速さで息を吐いていただきます。10秒ほど一定の速さで息を吐いていただくと検査は終了します。

呼気 NO 検査でわかること

一酸化窒素(NO)はぜんそくやアレルギー反応で増加する特徴があります。このため呼気NO検査を行うことで、スパイログラフィーでは区別が付きにくいぜんそくやアレルギー反応とCOPD(慢性閉塞性肺疾患)を鑑別することができます。